

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

イラン、ウズベキスタン、中国・新疆ウイグル自治区の地機と杵機と高機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5220

第5章 イラン、ウズベキスタン、 中国・新疆ウイグル自治区の地機と杵機と高機

吉本 忍

はじめに

本稿は1998年度と1999年度のシルクロード学研究中心の研究助成を受けて、イラン、ウズベキスタン、中国・新疆ウイグル自治区でおこなった調査の成果報告の一部を構成するものである。

シルクロードの道筋にあたる国々で、伝統的に使用されてきた主要な織機としては、地機と杵機と高機があげられる。このことについては、これまでにさまざまな文献資料や写真資料によって、おおよその理解はできていたものの、個々の地域や民族の織機についての具体的、かつ詳細な資料はほとんど無きに等しい状況であった。しかし、今回の1998年と1999年のイラン、ウズベキスタン、中国・新疆ウイグル自治区における現地調査では、織機や機織り技術をはじめとするさまざまな1次資料を数多く入手することができた。調査対象とした織機の使用民族は、イランでは、ペルシア(Persia)人、アゼルバイジャン(Azerbaijan)人、カシュカイ(Qashqa'i)人、ギーラーン(Gilan)人、クルド(Kurd)人、タリシュ(Talysh)人、トルクメン(Turkmen)人、バフチアリ(Bakhtiari)人、ロル(Lor)人の9民族、ウズベキスタンでは、ウズベク(Uzbek)人、カザフ(Kazakh)人、タジク(Tajik)人、トルクメン人の4民族、中国・新疆ウイグル自治区では、ウイグル(維吾爾)人、カザフ(哈薩克)人、モンゴル(蒙古)人の3民族であった。これらの民族は、インド・ヨーロッパ語族のイラン語系(以下では、イラン系と記述する)の民族と、テュルク語系(以下では、テュルク系と記述する)、モンゴル語系(以下では、モンゴル系と記述する)の民族であり、ペルシア人、ギーラーン人、クルド人、タリシュ人、バフチアリ人、ロル人、タジク人はイラン系、アゼルバイジャン人、カシュカイ人、トルクメン人、ウズベク人、カザフ人、ウイ

グル人はテュルク系、そして、モンゴル人はモンゴル系に属している。

本稿では、以上のようなイラン、ウズベキスタン、中国・新疆ウイグル自治区の諸民族のもとで入手した資料にもとづき、第1節において、地機と杵機と高機という3種類の織機の構成部品についての分析をおこなうとともに、それぞれの織機によって織られてきた織物についても報告する。つづいて、第2節では、地機、杵機、高機について、それぞれに構造・機能論的な視点から型式分類をおこなうとともに、個々の型式の分布をあきらかにする。そして、第3節では、地機と杵機と高機の構造・機能論的な傾向について、また、第4節では、地機と杵機と高機の分布論的な傾向について、比較と分析をおこなう。そして、最後に第5節では、総括をおこない、シルクロードにおける織機の特質について、若干の考察を試みる。

なお、以下における地機、杵機、高機の分析では、分析結果に該当する使用民族名とともに、調査対象とした織機をコード番号であらわしている。そして、それらのコード番号は、本報告書の第Ⅲ部「シルクロードの織機」において報告している織機のコード番号に対応している。

1. 地機と杵機と高機

イランとウズベキスタンと中国・新疆ウイグル自治区において調査することができた織機は、地機と杵機と高機の3種類であった。イランでは、今回の調査につづいて、1999年におこなった調査¹⁾で、細幅の紐を織るためのカード織機や投石紐をつくるための専用の織機、さらには、わが国のわらじつくりと同様に道具をいっさい使わない機織りの存在も確認しているが、地機と杵機と高機はイランとウズベ

キスタンと中国・新疆ウイグル自治区で、もっとも普遍的に使用されてきた織機として位置づけられる。

地機と枠機と高機は、織機としての構造が大きく異なっていると同時に、それらの織機構造は、使用地域や使用民族ごとにもかなりの違いが認められた。また、地機と枠機と高機によって織られている織物の種類にもかなり違いがあった。したがって、以下では、それらの違いを、地機、枠機、高機の順に、構成部品、経糸の保持方式、経糸保持具の構成型式、整経方式、開口具の基本構成型式、開口具の設置方式などに注目して、構造上の特徴をあきらかにする。そして、それらとともに、調査対象とした織機で織られていた織物の織技法、地組織、絨維素材、用途、寸法、さらには、機織りに携わっている織り手についても報告する。また、以下の報告では、織機構造の違いごとに、該当する織機についての国別の使用民族名と、第Ⅲ部「シルクロードの織機」で提示している織機のコード番号を付している。なお、織機の使用民族名については、定着民と遊牧民の違いをあきらかにするため、織機の使用民族が遊牧民のばあいは、民族名のあとに遊牧民であることを記し、同一民族であっても、定着民と遊牧民を区別している。

1 地機

地機²⁾は、地面に設置した杭や横木を経糸保持具とし、それらのあいだに経糸を張りわたした織機であり、機織りは地面の上でおこなわれている。このような地機について、今回、イランでは、アゼルバイジャン人、カシュカイ人、ギーラーン人、クルド人の4民族、ウズベキスタンでは、ウズベク人、カザフ人、タジク人、トルクメン人の4民族、中国・新疆ウイグル自治区では、ウイグル人、カザフ人、モンゴル人の3民族のもとで、総計16例の調査をおこなった。

1) 構成部品

地機のおもな構成部品には、以下に述べるような、経糸保持具、経糸間接保持具、経糸中継棒、開口具、

綜統固定具、開口補助具、緯入具、緯打具、開口部記憶紐、経糸整列具、幅出し具などがある。

経糸保持具

経糸保持具は、経糸を直接保持する部品であるとともに、機織りに不可欠である経糸の張力と、直接、あるいは、間接的に関係している。地機の経糸保持具としては、以下に述べるような杭と横木という2種類の経糸保持棒と、経糸保持紐がある。

<経糸保持棒（杭）>

杭は、地面に垂直に打ち込んである。このような杭は、単体で経糸保持棒として機能しており、経糸は束ねた状態で杭にかけてある。

以下には、このような経糸保持棒としての杭を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】【UGJ-1】、カザフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】（写真1）【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

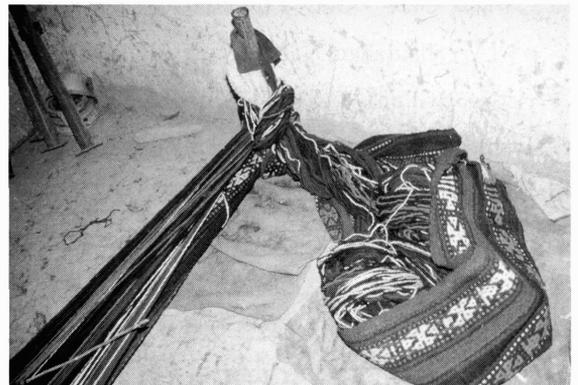


写真1 経糸保持棒（杭）

<経糸保持棒（横木）>

経糸保持棒としての横木は、それ自体では、経糸保持棒としては機能せず、横木を支えるための経糸間接保持具と組みあわせ、横木をしかるべき状態で設置することによって、経糸保持棒として機能することとなる。

以下には、このような経糸保持棒としての横木を

確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、ギールン人【IGF-3】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、カフ人【UGC-6】、
タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】トルクメン人
【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】、カフ人【XGC-2】、モンゴル人
【XGC-1】

<経糸保持紐>

経糸保持紐も経糸保持棒としての横木と同様にそれ自体では、経糸保持紐としては機能せず、経糸保持紐を保持するための経糸間接保持具と組みあわせ、経糸保持紐をしかるべき状態で設置することによって、経糸保持紐として機能することとなる。

以下には、このような経糸保持紐を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

カシュガイ人（遊牧民）【IGF-2】、ギールン人【IGF-3】、
クルト人（遊牧民）【IGF-1】

経糸間接保持具

経糸間接保持具は、経糸を直接保持する経糸保持具のうち、経糸保持棒、および、経糸保持紐としての横木と紐を設置するために不可欠の部品である。そして、それとともに、機織りに不可欠の張力を調整するための部品として、経糸を間接的に保持する機能をそなえている。そうした経糸間接保持具としては、杭、横木、紐、ネジ金具、レンガを確認している。これらの経糸間接保持具と経糸保持棒（横木）や経糸保持紐との組み合わせによる経糸保持具の設置方式については、5種類の方式を確認しており、それぞれの設置方式は、経糸を張りわたした地機の前部と後部の一方、あるいは、両方に認められる。

以下には、それらの設置方式を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を、設置方式の概要とともに記す。

<経糸間接保持棒による経糸保持具の設置方式>

① 太い横木と杭と紐による経糸保持棒（細い横木）の設置方式

これは、経糸間接保持具として、太い横木と杭と糸の束を使用して、経糸保持棒（細い横木）を設置する方式である。この方式では、経糸のループ状になっている端の部分に通した経糸保持棒（細い横木）を、太い横木にらせん状に巻きつけた糸の束で繋ぎ留め、太い横木の両端を2本の杭にかけわたしている。

イラン：

クルト人（遊牧民）【IGF-1】（写真2）



写真2 太い横木と杭と紐による経糸保持棒（細い横木）の設置方式

② 横木と杭と紐による経糸保持紐の設置方式

これは、経糸間接保持具として横木と杭と紐を使用して、経糸保持紐を設置する方式である。この方式では、経糸のループ状になっている端ごとに通した経糸保持紐が横木に結びつけてある。そして、横木の両端は2本の杭の外側にかけわたし、経糸保持紐とは別の紐でくくってある。

イラン：

ギールン人【IGF-3】（図1）

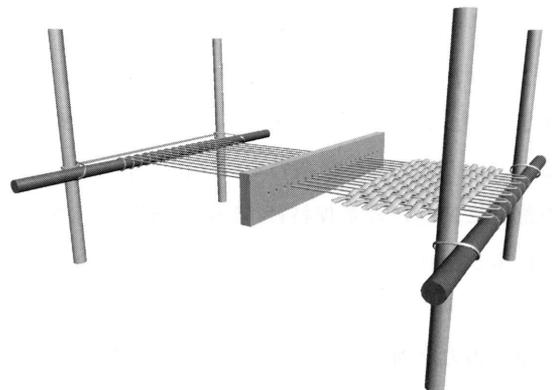


図1 横木と杭と紐による経糸保持紐の設置方式（図の右端部分）

③ 杭と紐による経糸保持棒（横木）の設置方式

これは、経糸間接保持具として、杭と紐を使用して、経糸保持棒（横木）を設置する方式である。この方式では、経糸のループ状になっている端の部分に通した経糸保持棒（横木）の両端を、2本の杭を介して1本の紐で繋ぎ留めている。経糸保持棒（横木）の両端と2本の杭は、平面的には四角形の四隅を構成する位置関係にあり、紐を必要に応じて引き締めたり、ゆるめたりすることで、経糸の張力を調整している。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】（写真3）、ギールン人【IGF-3】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、ガフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ガフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

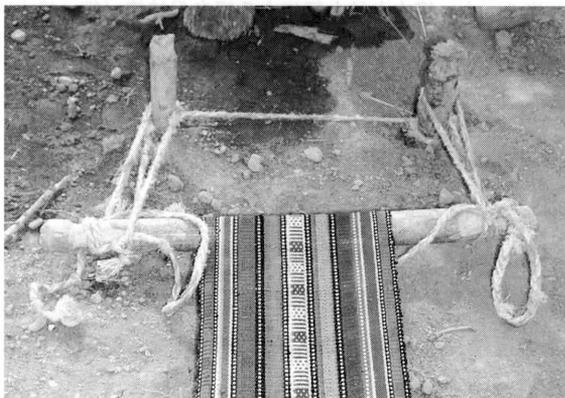


写真3 杭と紐による経糸保持棒（横木）の設置方式

④ ネジ金具と杭による経糸保持棒（横木）の設置方式

これは、経糸間接保持具として、ネジ金具と杭を使用して、経糸保持棒（横木）を設置する方式である。この方式では、経糸のループ状になっている端の部分に通した経糸保持棒（横木）の両端と、2本の杭にネジ金具をかけたわたして繋ぎ留めている。ネジ金具は、ネジを締めたり、ゆるめたりすることで、経糸の張力を調整している。なお、ネジ金具は20世紀後半になって使用が始まったものであり、ネジ金具の使用以前は、前記の紐を経糸張力調整具とした

設置方式であった。

イラン：

カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】（写真4）

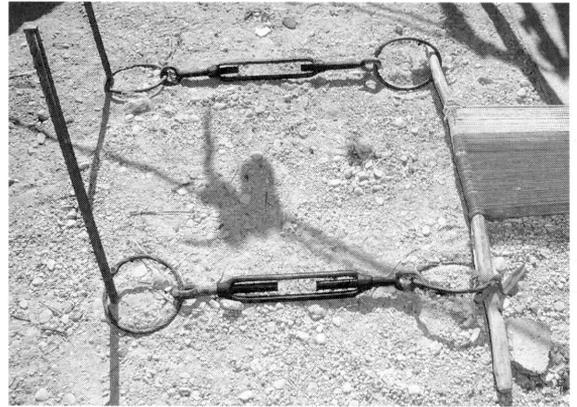


写真4 ネジ金具と杭による経糸保持棒（横木）の設置方式

⑤ レンガと杭による経糸保持棒（横木）の設置方式

これは、経糸間接保持具として、レンガと杭を使用して、経糸保持棒（横木）を設置する方式である。この方式では、経糸のループ状になっている端の部分に通した経糸保持棒（横木）の両端と、経糸保持棒（横木）の内側にある2本の杭とのあいだに、レンガをはさみ込んで経糸保持棒（横木）を固定している。そして、レンガの枚数を増やしたり、減らしたりすることによって、経糸の張力を調整している。

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】（写真5）



写真5 レンガと杭による経糸保持棒（横木）の設置方式

経糸中継棒

経糸中継棒は、後述する整経方式が擬似輪状整経式のばあいには、経糸を輪状に繋ぎとめるための部品

として使用している。

以下には、経糸中継棒を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】(写真6)

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGJ-1】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】



写真6 経糸中継棒-a

開口具

開口具には、地組織を織るために使うものと、紋組織を織るために使うものがある。地組織を織るための開口具には、輪状綜統³⁾と開口保持具⁴⁾があるが、開口保持具には、棒状の開口保持棒と板状の開口保持板の2種類がある。また、紋組織を織るための開口具としては、糸綜統と開口保持棒がある。

以下には、これらを確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<地組織を織るための開口具>

① 輪状綜統

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、カシュカイ人(遊牧民)【IGF-2】、クルド人【IGF-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】【UGJ-1】、ガザフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】(写真7)、ガザフ人(遊牧民)【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】



写真7 輪状綜統-a, 開口保持棒-b

② 開口保持棒

イラン：

クルド人(遊牧民)【IGF-1】、カシュカイ人(遊牧民)【IGF-2】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】

③ 開口保持板

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】【UGJ-1】、ガザフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人

中国・新疆ウイグル自治区：

ガザフ人(遊牧民)【XGC-2】(写真7参照)、モンゴル人【XGC-1】

<紋組織を織るための開口具>

① 糸綜統

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】(写真23参照)

ウズベキスタン：

タジク人【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】(写真22参照)

② 開口保持棒

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】(写真23参照)

綜統固定具

綜統には、開口具の項で述べているように輪状綜統と糸綜統があり、地組織を構成するために使用し

ている輪状綜統は、ウズベキスタンのウズベク人が使用する1例の地機【UGF-2】以外では、すべてが綜統固定具によって固定した状態で設置してある。そうした綜統固定具には、輪状綜統の綜統棒の両端を逆Y字形の木、あるいは、石、木片、空き缶などの2個1組の綜統固定具によって下から支える方式と、輪状綜統の綜統棒を三脚や弓状の綜統固定具によって上から吊るす方式がある。

以下には、それらの綜統固定具を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<輪状綜統を下から支える方式の綜統固定具>

① 逆Y字形の綜統固定具

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】(写真8)、ガフ人【UGC-6】、
タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人
【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】



写真8 逆Y字形の綜統固定具-a

② 石、木片、缶などの綜統固定具

イラン：

カシュガイ人(遊牧民)【IGF-2】、クルト人(遊牧民)
【IGF-1】(写真9)

<輪状綜統を上から吊るす方式の綜統固定具>

① 三脚

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】(写真10)

中国・新疆ウイグル自治区：

ガフ人(遊牧民)【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

② 弓状の綜統固定具

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGJ-1】(写真11)



写真9 缶(a)と木(b)を利用した綜統固定具

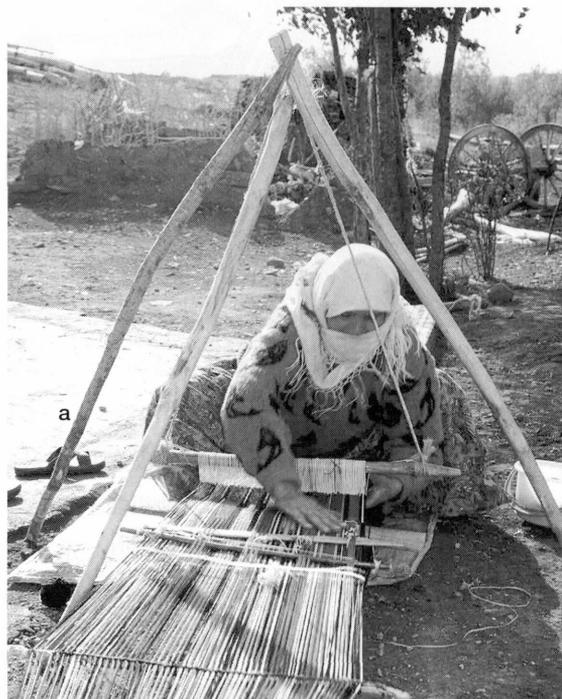


写真10 三脚-a



写真11 弓状の綜統固定具-a

開口補助具

開口具による経糸の開口や逆開口を補助するため

の開口補助具としては、弾き棒、紋織用経糸すくい板、開口保持棒牽引紐がある。

以下には、これらの開口補助具の概要と、それぞれの開口補助具を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<弾き棒>

弾き棒は先の尖った長さ15~20cm程度の棒で、その先端部を、経糸の上で左右に往復させて、からみあった経糸を弾きながらほぐすための部品である。これは経糸が、比較的太くて毛羽立った羊毛の糸のばあいには使用している。

イラン：

カシュガイ人（遊牧民）【IGF-2】、クルド人（遊牧民）【IGF-1】（写真9参照）

<紋織用経糸すくい板>

紋織用経糸すくい板は、紋織りに必要となる特定の経糸をすくい取るためのヘラ状の板である。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-6】、タジク人【UGC-5】（写真12）、トルクメン人【UGC-2】

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人（遊牧民）【XGC-2】



写真12 紋織用経糸すくい板-a

<開口保持棒牽引紐>

開口保持棒牽引紐は、経糸を開口させるさいに、開口保持棒を手前に引き寄せるために使用する開口保持棒に付属した紐であり、紐の両端は開口保持棒の両端に結んでいる。

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】（写真13）



写真13 開口保持棒牽引紐-a

緯入具

緯入具としては、1本の細長い棒を緯入具として用いている。長さは短いもので24cm、長いもので40cmであった。また、直径は細いもので0.5cm、太いもので直径が1cmであった。

以下には、このような緯入具を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、カザフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】（写真14-a）、カザフ人（遊牧民）【XGC-2】

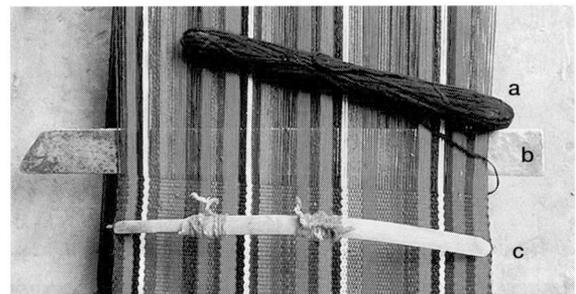


写真14 緯入具-a, 刀状緯打具-b, 伸子-c

緯打具

緯打具としては、刀状の緯打具、櫛状の刃に把手が付属した緯打具、経糸を1本ずつ通す穴を1列にあけた板状の緯打具の3種類を確認している。このうち、刀状の緯打具には、把手のあるものと把手のないもの、片方の端が切先状に尖っているものと両端が切先状に尖っているものなどがある。緯打具は、こうした形状の違いによって5種類に分類し

た。これらの緯打具のうち、地機の一般的な緯打具は、刀状を呈したものである。櫛状の刃に把手のついた櫛状緯打具は、後述する枠機で一般的に使用しているもので、地機で使用しているものは枠機の緯打具を転用したものと見られる。また、板状緯打具はむしろ織専用の地機で緯打具として使用しているものである。

以下には、これらの緯打具を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<把手のある刀状緯打具>

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】
【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、モゴル人【XGC-1】（写真15）

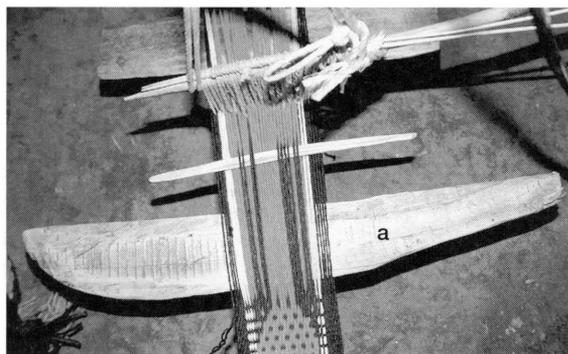


写真15 把手のある刀状緯打具-a

<把手がなく、片方が切っ先状の刀状緯打具>

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】（写真14参照）

<両端が切っ先状の刀状緯打具>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】（写真16）



写真16 両端が切っ先状の刀状緯打具-a

<櫛状緯打具>

イラン：

カシュガイ人（遊牧民）【IGF-2】、クルド人（遊牧民）
【IGF-1】（写真17）

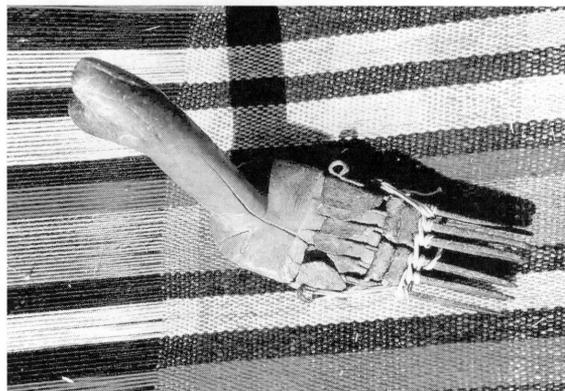


写真17 櫛状緯打具

<板状緯打具>

イラン：

ギーラーン人【IGF-3】（写真18）



写真18 板状緯打具-a

なお、以上のような緯打具のうち、櫛状緯打具の刃先は金属製で、把手は金属製、あるいは木製である。また、その他の緯打具のほとんどすべては、木製であったが、ウズベキスタンでウズベク人が使用している把手のある刀状緯打具のうちには、唯一、使い古した果物ナイフを転用している例【UGF-2】があった。

緯打補助具

緯打補助具としては、緯糸打ち締め糸がある。これは緯糸を打ち込むさいの緩衝材として使用しているもので、緯糸の打ち込みは、緯糸打ち締め糸を介しておこなっている。この緯打補助具の使用例は、イランにおいて1例のみを確認している。

以下に、この緯糸打ち締め糸を確認した地機の使用民族名とコード番号を記す。